

第3章-2. 日本仏教史

1. 仏教の受容

※仏教公伝……6世紀、朝鮮半島の百済から

538年説……「上宮聖徳法王帝説」(聖徳太子の伝記、824年以降成立)

552年説……「日本書紀」

◎ _____ (574-622、厩戸皇子)

・ _____ ……施政方針(604)

第1条 _____ を以て貴しとなし、忤うること無きを宗とせよ。

(=儒教的身分秩序+日本的忍従・調和)

第2条 篤く _____ を敬え。三宝とは _____ なり。

・ 『 _____ 』 ……法華経、維摩経、勝鬘経の注釈

大乘仏教の基本精神をのべ、真理は日常生活の中に実現される、と説く。

但し、内容は6世紀頃に中国で書かれた文とほぼ同文。太子の著作というのも怪しい。

・ 世間虚仮、唯仏是真 ……現世はむなしく、仏だけが真実

「天寿国繡帳」(太子の死後、その夫人が作らせたもの)に記された言葉

太子の仏教的人生観を表した言葉とされるが、これもかなり疑わしい。

2. 奈良時代

“ _____ ” ……仏教は「天下の安泰を祈る」役割

↑ 朝廷の保護 (聖武天皇、光明皇后、国分寺、大仏 etc.)

・ _____ ……仏教研究の学派

法相宗、成実宗、三論宗、俱舎宗、華嚴宗、律宗

◎ _____ (688-763) ……唐僧。753 来日

東大寺に日本初の戒壇 (正式な僧侶資格=戒を授ける場) を設置。

律宗を伝え、唐招提寺を開く。

◎ _____ (668-749) ……民衆に布教、道路・橋などの公共施設を作る。

682年、大官大寺で得度、飛鳥寺・薬師寺で法相宗を学ぶ。

彼の行動に従っていた者の中に、許可無くして僧を自称した「私度僧」が多く、
また、僧尼令は寺外での僧の活動を禁じており、それに違反したとして処分された。

しかし723年の三世一身法以後、彼らが墾田の推進に貢献していることから

聖武天皇が彼らに接近、大仏造立の協力をもとめる。

745年、大僧正の称号授与。

3. 平安時代初期

◎ _____ (767-822、 _____ 大師、804年入唐、翌門帰国)

・ _____ 宗 を唐から伝える ……6c.、天台智顛(538-597)が大成した宗派

//

・ _____ (_____)

法華経(妙法蓮華経、1-2世紀にインドで成立)の大乘精神を仏教の根本とし

「一切衆生悉有仏性」を自覚して修行すれば皆悟りを開ける、と説く

→ 日本天台宗では「山川草木悉皆成仏」とも

・ _____ 山 _____ 寺 (← 788年、一乗止観院を創建) を開く

ここに大乘菩薩戒壇を設置 → 最澄の死後勅許

→ 鎌倉仏教の祖たち(一遍を除く)もここで学ぶ

・ 著書『頭戒論』、『 _____ 』(学生の規則と教育方針)

◎ _____ (774-835、 _____ 大師、804年入唐、806年帰国)

・ _____ 宗 を唐から伝える

真言=サンスクリット語(梵語)の「マントラ」(=神に呼びかける呪文)

唐で密教第一人者の恵果のもと、密教の金剛界、胎蔵界両方の秘法のすべてを授かる。

・ _____ 山 _____ 寺、京に _____ 寺 (_____) を開く

・ 三密

┌ 身に印を結ぶ
├ 口でマントラを唱える
└ 心で _____ (宇宙の原理を示す最高仏) を思い描く

↓

その修行によって“ _____ ”が可能となる

(生きながら大日如来と一体化して清らかな命を力強く生きられる)

・ 著書『三教指帰』 ……儒教・道教よりも仏教がすぐれている

『十住心論』 ……悟りへの道程を説く

・ _____ ⇔ _____
行によってのみ到達できる秘密の教え (頭=あきらか)

→ 天台宗も最初は頭教だったが密教化

_____ によって、平安貴族たちの現世利益に奉仕

3. 平安後期

(1). 思想

- ①. 正法……釈迦の死後 1000 年
仏教の教え・修行・悟り（教・行・証）とも存続
- ②. 像法……その後 1000 年
教えと修行はあるが、悟りが得られない（証なし）
- ③. 末法……その後 1 万年
教えはあるが、修行者も悟りもなし

↓

1052 年から末法に入る、という噂が広まる

↓

(2). 信仰

死後、 に することを願う（⇔現世利益）

↓

 の救済にすがる

“ ”と唱える（ ）

※阿弥陀仏……法蔵という名の修行者・菩薩であった時、衆生救済の 四十八願を立て、それが達せられないうちは自分も成仏しない、と誓って修行し、ついに成仏した。そのうちの第 18 願が「念仏したものは極楽浄土に往生させる」こと。
＝「弥陀の本願」

◎ (903-72) ……別名 “ ”
 民衆に念仏（口称念仏）を広め、社会事業と貧民救済に尽くす

◎ (942-1017) ……^{えしんそうず}恵心僧都

※「観想」と「口称(称名)」の 2 種の念仏を論じたが、
「**観想念仏**」(心に仏を想う)を重視

著書『 』(985)

“ ” (おんりえど) ……汚れたこの世を離れ

“ ” (ごんぐじょうど) ……極楽浄土往生を求める

↓

貴族社会に浄土思想を広める → 藤原頼通の「平等院鳳凰堂」造営

4. 鎌倉仏教

基本的に庶民対象……^{せんちやく}選 択 (1つを選ぶ)、^{せんじゆ}専 修 (それに専念する)・^{いぎょう}易 行 (易しい修行)

※一遍以外の 5 名はいずれも比叡山に学ぶ

(1). 浄土教系……念仏を唱える。他力本願。農民に広まる。

◎ (1133-1212) …… の祖、主著『 』

中国浄土教の祖・善導 (613-81) の著作中に

「一心に専ら弥陀の名号を念ず」という文に出会う

念仏のみを正行とし残りは余行とする＝

^{くしょう}口称念仏 (称名念仏、口で南無阿弥陀仏と唱える) だけを重要視

※讃岐に配流

◎ (1173-1262) …… の祖、主著『 』

絶対他力……阿弥陀仏の働きに全てをまかせる^{しねんほうに}自然法爾のあり方のみが往生の道

「念仏を唱えようとする心」がおこるのも阿弥陀仏の力による

※ルター……神の力無しでは善意志もない

自ら肉食妻帯、在家と出家を区別する従来の考え方を批判 ※越後に配流→常陸

弟子 (現・水戸市河和田の人) の著書『 』

前半10章は親鸞語録、後半8章は異説への批判慨嘆

・ 説

善人なほもて往生をとぐ、いはんや悪人をや。

しかるを世の人つねにいはいく、悪人なほ往生す、いはんや善人をやと…

自力作善の人……「他力をたのむところかけたるあひだ、弥陀の本願にあらず。」

煩惱具足の凡夫……「他力をたのみたてまつる悪人、もつとも往生の正因なり。」

(救済の主対象)

※ただし「本願ばかり」(悪をなせば救われると考える)はダメ

◎ (1239-89、遊行上人・ …地位財産全てを捨てて遊行)

スローガン「往生の時機を失すべからず」…… の祖

・ ……往生できる喜びを表現

(2). 法華經信仰……題目を唱える。他力本願。日本独自のもの。

- ◎ _____ (1222-82) …… _____ の祖
法華經 (妙法蓮華經) を最高の教えとする
 その**題目**を唱えれば (唱題) 救われる “ _____ ”
 主著『 _____ 』 ……北条時頼に献じた論策、国難到来予言
しかかくげん
四箇格言 ……他宗派を批判 (しやくぶく 折伏・相手を論破する)
 「 _____、 _____、 _____、 _____ 」
 ※上記に天台宗は含まない (同じ法華經信仰だから)
 ↔ のち室町時代に「天文法華の乱」(1536) で、
 比叡山が本能寺ら京都市内の日蓮宗の寺院を焼き討ち
 現世主義 ……救いを来世に求めるだけでなく、
 この現世を法華經信仰によって仏国土へと転換すべき。

(3). 禅宗系 ……坐禅。自力本願。武士に広まる。

- ◎ _____ (1141-1215) …… _____ の祖、主著『 _____ 』
 南宋に渡り臨濟宗 (唐の臨濟義玄を祖とする) を学ぶ
 坐禅をしつつ師から与えられた _____ を考える (看話禅) → 禅問答
 臨濟僧により多くの中国文化が日本へ (茶・水墨画・建築 etc、少し後には朱子学も)
 = 科挙受験生 (士大夫) 階級の文化
 → 日本の武家社会に受容され、幕府の保護を受ける
- ◎ _____ (1200-53) …… _____ の祖、主著『 _____ 』
 南宋から曹洞宗を伝えこれを深化させる
 ・ _____ ……ただひたすら坐禅するのみ (修行)
 //
 ・ _____ ……邪念から自然に離れた境地 (悟り)
 ※修証一等 ……修行の状態がそのまま悟りの状態でもある
 → 西田幾多郎の「主客未分の純粹經驗」

(4). 旧仏教

- 華嚴宗 ……高弁 (明恵上人、1173-1232)
 律宗 ……叡尊 (1201-90) 下層民の救済事業
 忍性 (1217-1303) 北山十八間戸 (ハンセン病患者などの救済施設) 創設

5. 室町時代の仏教

- ◎ _____ (1415-99) ……浄土真宗
 平易な文章 (_____) で農民に教えを説き、信者の共同体 (講) を組織
 → 寺内町を形成 → 一向一揆
 ◆ 臨濟宗 ……鎌倉時代に引き続き幕府の保護
 五山の制 (京都五山、鎌倉五山)
 五山の僧は、漢文・朱子学・山水画・茶など
 中国の科挙知識人階級の文化の中心に

付：神道と仏教・儒教

- ・ 神仏習合
 ①. ほんじすいじやくせつ 本地垂迹説 (平安末期) ……仏教が主 (本地)。神の現世利益は仏の慈悲。
 密教と神道 ……山王神道 (天台宗)、両部神道 (真言宗)
 ②. 伊勢神道 (鎌倉末期) ……反本地垂迹説 (神道が主、仏教が従)。度会家行。
 ③. 吉田神道 (室町中期) ……反本地垂迹説。吉田兼俱。
 神を根本に置き、儒学や仏教は神道の果実である、とする。
- ・ 垂加神道 (江戸初期) ……山崎闇斎による。朱子学と神道の融合。
- ・ 復古神道 (江戸中期) ……平田篤胤による。国学と神道の融合。
 儒教・仏教を排斥。日本固有の神道への復帰を主張。